Role Model

05

医療系（小児看護学）

城下由衣

大学院生命科学研究部講師

子どもたちに
笑顔を届けることができるよう、
日々研究に取り組んでいます。

大学
▼
病院（看護師）
▼
大学院（博士前期・後期課程）
▼
大学教員

子どもたちとの触れ合いが研究の道へと導いた

母が薬剤師だったのでもともと医療系の仕事に興味があり、大学は医学部保健学科に進学しました。大学3年生時に小児看護学実習で出会った子どもたちから「ありがとう。また遊ぼうね」と感謝のお手紙をもらい、心が熱くなったことは今でもはっきりと覚えています。

また東日本大震災時は学生ボランティアとして東北へ行き、瓦礫撤去のほか、被災者の精神的ケアに携わりたいと仮設住宅に住む子どもたちと全力で遊びました。私は記録用にカメラを持参していたのですが、ある日そのカメラを子どもたちに奪われたんですね。あとでデータを見たら誰かの顔のアップ写真がそれはもうたくさん撮影されていて、みんなで大笑いしたことを今でも懐かしく思い出します。卒論はその時の経験を含め「被災地の子どもたちのケア」をテーマに書きました。

Profile しろした・ゆい　2009年に熊本の高等学校を卒業後、広島大学に入学。2013年に同大学卒業後、看護師として病院勤務を経て、広島大学大学院医歯薬保健学研究科博士前期・後期課程に進学。2019年から同大学の教員、2022年から熊本大学に着任し、現在に至る。

Yui SHIROSHITA

看護師を続けながら大学院へ進学

大学卒業後は看護師として病院に勤務しました。看護師という仕事には大変やり甲斐を感じていましたが、一方で「研究テーマをもっと掘り下げたい」という気持ちと子どもたちのケアに対する強い思いが芽生え、修士課程への進学を決意しました。しかし大学院では、自分の出来なさ具合に毎日落ち込む日々で、泣きながら論文を読んでいたこともありました（笑）。ご指導いただいた先生や院生のみなさんに支えていただきながら、なんとか研究を進めることができました。うまくいかないことも多いのですが、興味のあることを深く調べ新しい知識を得て、そこから考察することの楽しさがあるのが研究の醍醐味だと感じています。

私のテーマは「子どもの痛み」で、早期産児の神経発達促進に向けた疼痛緩和の研究に取り組んでいます。新生児期に採血などの痛みを伴う処置を何度も受けることは、神経発達障害のリスクにつながることが報告されています。そのリスクを少しでも低下できるよう、痛み処置の際に痛みを緩和する方法の確立を目指して研究を進めています。学生時代や看護師時代、また被災地で出会った子どもたちのことを思うと「もっと何かしてあげられたのではないか」と思うことがあります。また折々でもらった子どもたちからのエールも研究への原動力となっています。

家族と周囲の協力があったからさまざまなことを乗り越えられた!

現在、私は2歳の男の子のママでもあります。夫と両家の母に全面的に協力してもらいながら、仕事と子育ての両立に奮闘しています。結婚当初、私は広島、夫は熊本に住んでおり、いわゆる別居婚でした。妊娠中は広島で1人暮らし。コロナ禍だったこともあり外出もほとんどせず、何も起きないよう祈りながら過ごす日々でした。熊本に里帰り出産をしたあと、大学教員の仕事復帰と博士課程の審査があったので、生後2か月の子どもを連れて再び広島に単身で戻りました。平日は、両家の母が交代で広島まで来てくれて、土日は夫に来てもらい、また周りの先生方にご配慮いただきながら、この時期をなんとか乗り越えました。熊本大学に着任後も引き続き家族や周りの先生方に支えていただきながら、仕事を続けることができています。

学生のみなさんには、勉強以外にも「今しかできないたくさんの経験」をしてほしいと願っています。その経験は必ず将来の糧となるはずです。私も子どもたちの笑顔を守るために、これからも研究と子育てに全力で取り組んでいきたいと思っています。

Column

Yui SHIROSHITA

宝ものは?

2歳の息子

10年後の目標は?
幸せな暮らしを続けること